

別冊

おいしいものがたり

～資料館資料編～ ■駒籠橋跡遺跡発掘展～古代水駅のロマンを求めて～より

現在資料館で開催中の「駒籠橋跡遺跡発掘展～古代水駅のロマンを求めて～」でも触れていますが、駒籠遺跡内の古代の建物群はⅠ～Ⅲ期の三つの時期に区分されることがわかっています。今回はそれぞれの時期の建物の特徴を紹介したいと思います。

まず、野後駅のはじまりにあたるⅠ期の建物は、その主軸（向き）が真北方向より西に傾いています。代表的な建築物には堀の跡があり、板堀ではなくより堅牢な材木堀でした。その高さは3mを超え、周囲100m以上にわたって駅を囲っていたことがわかっています。他にも一辺が10mクラスという超大型の竪穴建物も見つかっています。このⅠ期は8世紀中葉～後葉と推定され、養老4年（720）の征夷大將軍の派兵や鎮圧拠点として多賀柵の築城（724）など、蝦夷と朝廷とが対立関係にある時期です。さらに宝龜5年（774）蝦夷による桃生城襲撃に端を発する38年戦争や、伊治岩麻呂の乱（780）など、その対立構造は激化していきます。そのような中で野後駅は、朝廷側の施設として蝦夷の地に建てられたこととなります。防御機能を高めた頑強な材木堀の必然性や、一帯を統率する有力者の館とみられる大型竪穴建物といったⅠ期の建物群の性格は、このような社会情勢に関係していると考えられそうです。

Ⅱ期になると建物の主軸は真北方向よりやや東に傾いていきます。Ⅱ期の建物は掘立柱建物が多くなり、それも駅を中心となるような格の高い大型の建物や、厩舎とも考えられる細長い長舎建物が散見されるようになります。延暦20年（801）征夷大將軍坂上田村麻呂による蝦夷征討の実施後、朝廷の対蝦夷政策は緩和傾向に向かい、同時に蝦夷の大和化が進みました。東北地方の情勢が安定していくに伴い、野後駅は駅本来の目的のために使用されるようになります。それは駅の主要施設としての大型の掘立柱建物や、充実した厩舎の建設などに見て取れます。この時期は野後駅の整備・発展期と位置付けられ、9世紀半ば頃まで継続されました。

Ⅲ期の建物は向きや配置はⅡ期を引き継ぎつつも、建て方が不揃いで規模も縮小しています。見つけた建物も多くはありません。Ⅲ期にあたる9世紀半ば以降は、中央集権国家の力が弱体化していき、荘園の台頭によってネットワークであった駅路が分断され、全国的に駅家が衰退していく時期に重なります。さらに嘉祥の大地震（850）、貞観地震（869）、十和田火山の噴火（915）といった相次ぐ自然災害により東北地方が著しく荒廃した時期でもあります。Ⅲ期に属する規模が小さく粗雑な造りの建物群は、駅の運営が困難になり、その機能を縮小せざるを得なくなった結果と考えられます。

このように発掘による成果に東北地方の古代史を照らし合わせてみると、歴史を背景にしたそれぞれの建物の特徴が浮かびあがり、より現実的な感覚で野後駅を見ることが出来ます。

駒籠橋跡遺跡発掘展～古代水駅のロマンを求めて～は令和6年1月21日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

LINEはじめました

防災情報などを
受け取ることができます。

友だち登録を
お願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み
取って友だちに追加して
ください。



大石田町公式LINE

防災放送の内容を

電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和5年11月1日現在

世帯数	2,238戸	(-5)
総人口	6,167人	(-15)
男	3,060人	(-7)
女	3,107人	(-8)

(10月中の異動)

出生	1人	転入	7人
死亡	11人	転出	12人

※この人数は外国人も含めたものです。